

(科目コード : 8507520135JJ)

【改訂】第26版(2014-03-12)

【科目】情報理論基礎

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 前期・1単位

【対象学科・専攻】 電子情報 5年

【担当教員】 石田 等

【授業目標】

確率の基礎的概念を理解することができる。
情報量・エントロピーについて基本的な計算ができる。
情報源符号化の基本を理解することができる。
通信路符号化の基本を理解することができる。
現代情報通信技術に情報量がどのように使われているかを理解することができる。

【教育方針・授業概要】

この講義では「情報とは何か」をキーワードに、確率統計の復習から始め、情報理論の基礎を学ぶ。具体的には情報と確率との関係、情報量とエントロピー、さらに符号理論の初歩まで学ぶ。

確率論の基礎
応用数学Iで習った確率統計を復習する。
情報量とエントロピー
確率をもとに情報量、エントロピーを定義し、例を示す。さらに結合エントロピー、条件付エントロピー、相互情報量について学ぶ。
情報源符号化
情報源の定義とモデル、符号化による冗長度の除去、ハフマン符号、LZ符号、情報源符号化定理を学ぶ。
通信路符号化と誤り訂正符号
通信路符号化定理、誤り訂正符号を学ぶ。
本科目の総授業時間数は22.5時間である。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：情報理論：三木・吉川：コロナ社：ISBN978-4-339-01202-6
参考書：わかりやすいデジタル情報理論：塩野充：オーム社
参考書：通信の数学的理論：C.シャノン、W.ウィーバー著、植松友彦訳：ちくま学芸文庫

【メッセージ】

この授業の内容は情報通信、符号理論、信号処理、人工知能などの発展的な分野の基礎となります。応用数学Iの教科書を手元に用意しておいてください。

【URLアドレス】

シャノンの論文：<http://cm.bell-labs.com/cm/ms/what/shannonday/shannon1948.pdf>

【成績評価方法】

[前期]中間試験：50%，期末試験：50%，中間試験、期末試験で評価する。

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	確率統計の基礎を理解し、基本的な問題を解ける。	25 %	中間試験において評価する。
2	情報量とエントロピーの概念を理解できる。	25 %	中間試験において評価する。
3	情報源符号化の基礎が理解できる。	25 %	期末試験において評価する。
4	通信路符号化と誤り訂正符号の基礎が理解できる。	25 %	期末試験において評価する。

【授業計画】(情報理論基礎)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1回	序論	情報量とは、通信システムのモデル、標本化定理と量子化		
2回～3回	確率論の基礎	集合・試行、確率、平均と分散、条件付き確率、マルコフ過程、ペイズの低利		
3回～5回	情報源符号化	情報源のモデル、エントロピー、情報量、平均符号長、情報源符号化定理		
6回～7回	情報源符号	情報源符号に必要な条件、ハフマン符号、ランレングス符号、算術符号、LZ符号		
8回	中間試験			
9回～10回	各種情報量	結合エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量、マルコフ情報源エントロピー		
11階～12回	通信路符号化	通信路モデル、通信路容量、平均誤り率、通信路符号化定理		
13階～14回	符号理論	誤り検出と訂正理論、パリティ検査符号、線形符号、巡回符号、多項式とベクトル、畳込み符号と再ゆう複合法		